

10.

三一

大島本島守備隊空襲詳報

大島本島守備隊

球二七四。警備隊一四部

大島本島守備隊空襲詳報提告、件報

昭和二十年三月五日

球第二七四。部隊

球第一六一六部隊長殿

首題、件別冊、通り提告ス

報告先

球第一六一六部隊長
球第七一六五部隊長

大島本島守備隊
空襲詳報
提告、件報
昭和二十年三月五日
球第二七四。部隊長殿

三月一日

一 戦闘前ニ於ケル彼我ノ形勢ノ概要

守備部隊ハ二月二十五日敵機動部隊近接シ空襲ノ心配アル
軍ヨリノ報ニ接シ戦闘ヲ嚴ニシツ、敵襲ニ對シ監視警戒ヲ
嚴ニシ且敵機撃墜迄退避準備ヲ整ヘ戦闘作業ヲ
續行シツツアリ

〇七五九皆津崎砲臺監視哨ヨリ敵機二十数機侵入シツ
ツアリトノ報告ニ依リ直ニ獨斷空襲警報ヲ發令ス各隊
ハ計畫ニ基キ對空監視ヲ嚴ニスルト共ニ對空射撃手ノ準備
ヲ完了ス

二 戦闘ニ影響ヲ及シタル氣象地形及住民ノ状態

天氣曇リ雲量多ク南ノ風五米ニシテ飛行機ノ發見及

識別ハ一千米以上ノ困難ナリ

任民ハ靜穩ニ待避シ戰闘ニ支障ナシ
三、彼我ノ兵力其他

ノ敵ノ兵力

自〇七五九第一次空襲 艦載機小型(單發)二四機

主トシテ船舶ニ對シ爆彈投下及機銃掃射ヲ行フ

自〇八二〇 第二次空襲 艦載機小型(單發)一一八機

主トシテ船舶ニ對シ爆彈投下地上施設ニ機銃掃射

自一五〇六 第三次空襲 艦載機小型(單發)七九機

主トシテ地上施設並ニ船舶ニ對シ爆彈投下及機銃掃射

自一六二二 第四次空襲 艦載機小型(單發)一八機

主トシテ地上施設ニ爆彈投下及機銃掃射

2. 敵ノ戰法

敵ハ高度千米以下ニシテ急降下ニ依リ爆彈投下並ニ機銃掃射ヲ實施ス 命中精度ハ概テ可ナルト判断ス

小型爆彈(五〇ト乃至二〇ト)並ニ燒夷彈投下及機銃掃射

ナリ

4. 我カ使用セル兵器

九二式重機関銃

九九式輕機関銃

四、各時期ニ於ケル戰闘經過關係部隊ノ動作及連絡施設ノ

狀態

1. 第一次空襲

敵機侵入ノ狀況別紙要圖第一、如シ

〇七五九艦載機小型二四機東南号上空ヨリ大島海峽東口

皆津崎上空ニ來襲セリ 皆津崎砲臺ハ九二式重機関銃

及九九式輕機関銃ニ依リ對空射撃ヲ實施ス 發射彈數

九二式重機一四六、同發光實包一八、九九輕機六〇、球七

一六六部隊大石隊 九二式重機一九四
〇八〇七 二編隊ニ分シ大島海峽内ノ船舶ニ對シ爆撃及機
銃掃射ヲ行ヒ 一隊ハ西南方一隊ハ南方ニ去ル
又第二次空襲

敵機行動要圖第一、如シ

〇八二〇 一隊(一四機)ハ喜界島南方ヨリ來襲爆撃及機
銃掃射ヲ行ヒ。八五五南方ニ去ル

〇八二三 一隊(一〇機) 南西上空ヨリ大島海峽西口ニ來襲
内一隊(七機)ハ左廻南西ニ去ル 内一隊(三機)ハ燒
内湾及西口上空ニ廻回船舶及地上施設ニ爆弾投下機
銃掃射ノ後。八四一南方ニ去ル

〇八二七 一隊(四機) 南西ヨリ古仁屋上空ニ來襲船舶及
地上施設ニ爆弾投下及機銃掃射ノ後。八五〇南方ニ去ル
第三次空襲

敵機行動要圖第三、如シ

一三一六 一隊(二機)ハ南方ヨリ大島本島西北方上空ヲ東北方
ニ來襲廻回ノ後去ル

一三五四 一隊(五機)ハ赤木名南方上空ヨリ赤尾木上空ニ
テ二隊ニ分シ機銃爆撃ノ後 一五〇七 一隊(二機)ト合シテ
西方ニ去ル 特設警備球七。七六部隊ハ九二式重機ニ依リ對
空射撃ヲ實施ス(九二式重機二機)

一三五五 一隊(二機)ハ南方ヨリ大島海峽西口ニ來襲古仁
屋上空ヲ廻回船舶及地上施設ニ爆撃ノ後一四三五南方
ニ去ル 球七一六六部隊大石隊ハ九二式重機ニ依リ對空射
撃ヲ實施ス(九二式重機一五機)

第四次空襲

一五三〇 一隊(一八機)ハ東北方ヨリ來襲 龍峯 名瀬上空
ヲ廻回機銃爆撃ノ後南方ニ去ル

被害狀況

(一) 地区隊

戰死四(兵) 戰傷二(兵) 兵舎全壊三 半壊一。

兵器廠木材(板材三三〇枚 二十角約二五〇本)破損

各砲台間、電話不通 三日ニ開通セリ

(二) 船舶

呂宋丸、星丸、大信丸、金山丸(大型)、琉球丸、石洋丸(中

型)沈没(搭載物資ハ爆破又ハ海没シ引揚利用等ハ不能ナリ)

廈門丸、大重丸小破

曉部隊機帆船一行方不明(戰死四、重傷九)

名瀬坐礁中、丹後丸大破 極洋丸小破

(三) 當隊收容人員負傷者三二 健在者約三二五(船員ヲ含ム)

戰死行方不明者相^葉アル見込ナルモ調査中

四 地方團

死七 一 負傷七 家屋全壊二六八 半壊七七

(五) 電話電燈線古仁屋久慈灣附近ニ於テ相等破壊セリ復旧

作業中ナリ

五 戰鬪後ニ於ケル彼我形勢ノ概要

部隊ハ益々警警戒ヲ嚴ニスルト共ニ戰備補強ニ勉ム

六 地方住民ノ狀況

地方住民ハ在郷軍人及警防團各警警戒配備ニ就キ萬人ヲ

期シ一般民ハ各自家ヲ空ク谷地、洞窟内ニ待避セリ

七 齟齬過失其ノ他將來ノ参考トナルベキ事項

(一) 敵機飛來、位置ハ我對空射撃ノ有効位置ニアラザリシ

爲一機ヲ撃墜シ得ス

八 本日、射耗彈藥左如シ

九二式重機南銃實包 四六五発 同燄光實包一八發

九九式輕機南銃實包 六〇發

ノ船團ノ動靜ニ依リ敵機來襲ノ算アリ狀況判断上考慮ヲ要ス

2、篠川部落附近ニ於テ通信線ノ被害大ナリ通信線ノ部落内通過ハ考慮ヲ要ス

3、待避壕ハ横穴式ニシテ頑強ナル爆風除ヲ設置スルヲ要ス
例

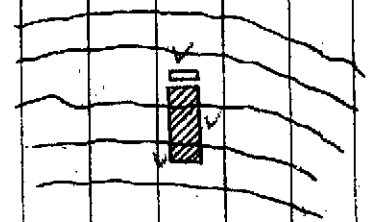
陸軍病院横穴式待避壕ハ比較的頑強ニシテ堅牢ナル爆風除アリタルタメ至近彈(五〇発)ニ發ヲ受クルモ待避中ノ見習士官以下六名被害ナシ

被彈狀況末尾略圖ノ如シ

4、患者病衣ハ色染トナスヲ要ス(白病衣ハ待避行動ノ際目標ヲ爲ス警報發令後ニアラサレハ來襲セサルノ觀念ヲ拂シ常ニ至近ナル對空監視ヲ行フト共ニ彼我識別(形容及爆音ニツイテ)

教育ヲ徹底スルヲ要ス
 6. 相當ノ悪天候ヲモ冒シ來襲スルヲモツテ氣象ノ如何ニ
 不拘常ニ至嚴ナル警戒ヲ要ス
 (三月二日艦載機三機銃害 三月四日 一機銃爆害ス
 兩日共終日降雨アリ視程五〇米以下ニシテ三月二日ハ風速
 一〇米ナリ)

略圖



壕ハ長サ一〇米
 〴ハ被彈位置ニシテ前方ハ壕ヨリ五
 米兩側ハ共ニ三米ナリ

別紙第三

第二次

118機
自08.20
至08.55

